



H22. 7. 2. №1275
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行＝指導部漁業振興課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

航海と操業の安全が守れることと確信しています」と挨拶が行われました。

続いて、出席した女性部員等全員に委嘱状が手渡された後、代表して大井川港漁協では村松女性副部長から「海の仕事は様々な危険が伴うので、大切な人や仲間の命が守れるよう愛情一杯で声掛けをします」と、また吉田町漁協では岸端女性部長が「家族が事故防止を行うしかない。本日を切っ掛けに強い気持ちで活動します」と漁家女性らしい視点で語りました。

なお、本県のLGL（ライフガードレディース）委嘱は、今回の委嘱者を合わせると155人を数え、関東・東海地方で最大の救命胴衣着用推進員を擁することとなりました。

4. 「清流がつなぐ未来の海づくり」 —第30回全国豊かな海づくり大会—

豊かな海づくり大会推進委員会では、6月13日 岐阜県関市において、第30回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～を開催しました。

河川で初めての大会は、天皇皇后両陛下をお迎えし、水産資源の保護・増大という漁業振興だけでなく、新たに「環境」を軸足に置き、森～川～海という一体となった自然環境（水・地球）を考える意義ある大会となりました。

当日は、大会テーマ「清流が つなぐ未来の 海づくり」のもと、記念式典（1,100人）と放流・歓迎行事（1,500人）の2部構成で行われ、本県からは参加枠の関係から、県（4名）、内水面（2名）、漁業関係者（4名）の合計10名が参加しました。

式典では、開会のことば（戸部岐阜県漁連会長）で始まり、主催者の横路衆議院議長より「大会を通じ、多くの人に美しい森や川や海を愛する気持ちが生まれることを期待」の言葉や、古田岐阜県知事からは「清流の国岐阜の魅力を高め、発信する」と挨拶があった後、尾藤関市長より歓迎の言葉が述べられました。

引き続き、部門別代表者への表彰【功績団体・作文・絵画・習字】、最優秀作文発表の朗読（桜が丘小 寺町岳純君）の後、大会決議（服部大会推進委員会会長）が採択され、大会旗を来年度開催される鳥取県の平井県知事に引き継ぎました。

また、放流行事会場では、伝統漁法（小瀬鵜飼）が紹介された後、両陛下のお手渡し（天皇：ヤマメ、皇后：ウシモツゴ）や両陛下の放流1回目（天皇：アユ、皇后：アジメドジョウ）2回目（天皇：カジカ、皇后：アマゴ）が行われ、これに併せ大会放流参加者もアユ（10cm2尾）を長良川へ放流しました。最後に自然への感謝と誓いとして、放流会場の対岸の森4.5ヘクタールを県下初の「魚つき保安林」に指定した旨報告がありました。

5. 全国漁青連の歌 ～いざ大海原へ～が完成！

JF 全国漁青連の設立20周年記念行事の一環として制作した、海の男のテーマソング～いざ大海原へ～（CD）が完成しました。

この歌は全国の漁青連と所属部員が、一致団結して一層の連帯感を強める目的で制作されたものです。作詞は、織田ゆり子氏、また作曲は、渡辺尚誉氏が手掛け、歌の内容は、大切な家族や水揚げを待つ人たちの期待を背に出漁する姿や、海を愛しその恵みに感謝する男たちの想いを明るく力強いメロディーに乗せた歌に仕上がっています。このCDは、静岡県漁青連にも配布されており、今後の各種行事や会合の折に披露する予定です。

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう

1. 平成22年度 第1回天草共販入札会開催

本会では、6月16日 天草共販事業の第1回入札会を、伊豆漁協（本所）において開催しました。

第1回の入札会では、伊豆漁協仁科支所や同土肥支所（小下田地区）の天草が中心に集荷され、数量は昨年初回次を大きく上回り20,250kgの上場となりました。

入札会は9人の買い付け業者が参加した結果、総取扱金額は17,551,950円で、平均価格は8,668円/10kgとなりました。

昨年同期の取扱数量・金額を見てみると、9,425kg、8,682,275円、平均単価は9,212円/10kgで、比較すると数量では215%、金額では202%と上回り、平均価格では94%と下回りました。

なお、第1回の入札結果は次のとおりです。

▽入札数量：20,250kg（810本/25kg）▽取扱金額：17,551,950円 ▽平均単価：8,668円（10kg当たり）▽最高価格：稲取（まくさ粗改良）20,160円（10kg当たり）。

<参考>次回第2回入札会の開催は、7月14日（水）です。

2. 桜えび春漁終了 水揚げ量は640トンと昨年春漁の75%にとどまる

当初、天候の影響で初漁が見送られていた本年の桜えび春漁は、4月18日夜に始まり6月10日夜で終漁し、この間の出漁日数は15日（昨年17日）で、漁獲量は640トンと昨年春漁（同859トン）を大きく下回りました。

しかし、平均単価は4,583円/kgと昨年春漁（同3,403円/kg）より高値で推移したため、水揚げ金額は約29億3千万円と昨年（同約29億2千万円）とほぼ同様の結果となりました。

なお、県桜えび漁業組合による主産卵場調査（桜えび増殖対策事業）は、本年度も県水産技術研究所の協力を得て6月～11月の休漁期に行われます。

3. ライフガードレディース39名が委嘱を受ける —大井川港・吉田町漁協女性部—

本会では、清水海上保安部と連携し、6月24日 大井川港漁協及び吉田町漁協において、救命胴衣着用推進員「LGL（ライフガードレディース）委嘱式」を、関係者立会いのもと執り行いました。

これは、海難事故の予防を図るため、救命胴衣の着用順守を徹底するよう、漁協女性部員等に、浜の安全は家庭内や漁港内での声かけ運動からという趣旨によるものです。

当日は、大井川港漁協の女性部員等19名が、また吉田町漁協においても20名が集合し、それぞれ清水海上保安部の星部長から「お母さんの愛情がこもった声掛けから地域活動を始めて下さい」と期待が述べられたほか、本会橋ヶ谷会長からは、「大切な主人や息子さんの

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう